

千葉県銚子市高神東町（たかがみひがしまち）方言に おける身体感覚を表すオノマトペ

佐藤亮一

はじめに

1. 調査対象地 銚子市は千葉県の北東の端に位置し、利根川の河口を挟んで茨城県に接している。高神東町は銚子市街地の東南、銚子駅から約2.5キロの位置にある。交通は銚子駅からバスを利用。農業を主業とし、キャベツ、大根など野菜類の産地。銚子市の人口は、26220世帯、86537人。高神東町の人口は、96世帯、407人（1992年2月29日現在）。
2. 調査年月日 1992年1月30日
3. 話者 岡根 巖氏 1924（大正13）年10月生まれ（68歳）
加瀬 金治氏 1919（大正 8）年 3月生まれ（72歳）
加瀬 初子氏 1917（大正 6）年 2月生まれ（74歳）
加瀬 広夫氏 1924（大正13）年10月生まれ（68歳）
山口四郎次氏 1920（大正 9）年 5月生まれ（71歳）
山口吉次郎氏 1914（大正 3）年 3月生まれ（77歳）
4. 調査者・調査場所 調査者は佐藤亮一。話者の方々全員に、加瀬金治氏の御自宅に集まっていた。なお、郷土史研究家の永沢謹吾氏、ならびに、斉藤薫氏（浅草生まれ育ち。20歳以降高神東町に居住）が同席した。
5. 調査方法 座談形式で一斉調査。したがって、それぞれの用例について、発言者を特定することができなかった。

I 全身の感覚

1-1. 快不快

さっぱり セーセー

○アセ カイダケッドモヨー ユサ ヘーッテ セーセート シタナー。

1-2. 寒さ

がたがた ガタガタ（使用するが共通語的。「ガタガクル」と表現するのが普通）

○サアクテ ガタガ キッチャッタヨー。

ぶるぶる ブルブル（副詞） ブルブル（名詞）

○アンチキショーワ（あいつは） ブルブル フルエテルワイ。

○キョーワ サバイチー。ブルブルガ キッチャウナー。

ぞくぞく アクゾク

○アンダ(何だ) キョー ソクゾクシンナー。
すうすう スースー
○ナントナク スースーシンナー。

1-3. 熱さ

かっか カッカ
○[酒を飲んだら] カラダガ カッカシテキタ。
注:「ポカポカ」は使わない。春の暖かさは「キョーワ ヌクドイナー」
のように表現する。

II 皮膚の感覚

ひりひり ヒリヒリ ビリビリ
○(日焼けして背中が) ヒリヒリ/ビリビリ/ビリビリ シンナー。
注:「ビリビリ」は「ヒリヒリ」や「ヒリヒリ」より程度が大きい。

べたべた ベタベタ
○キョーワ シットリ アツツイナー。セナカガ ベタベタシンナー。

むずむず モゾモゾ
○[背中に] ムシデモ ヘーッテ ナントナク モゾモゾシンナー。

がさがさ ガサガサ
○テガ ガサガサン ナッチャッタ。

つるつる ツルツル
○ハダガ ツルツルシンナー。

ずきずき ズギズギ
○傷・できもの・頭などが～する。

ひりひり ヒリヒリ ビリビリ
○やけどしたところが～する。

補足:しもやけに関しては「シモヤゲガ イタガイー(痛痒い)」のように表現する。

III 頭部の感覚

3-1. 頭

がんがん ガンガン
○アダマガ ガンガンシル。バッチャゲソーダ(こわれそうだ)。

くらくら クラクラ グラグラ
○アダマガ グラグラシンナー。

ずきずき 既出(皮膚の感覚)

3-2. 顔面

かっか カッカ

○(恥ずかしくて)カオガ カッカシル。

注:「カオガ ホテッチャッタ」とも言う。

3-3. 目

ちかちか チカチカ

○メガ チカチカシル。(目が痛いとき)

しょぼしょぼ シバシバ ショボショボ

○メガ シバシバシル。(目が疲れたとき)

注:「メガ オモダルイ」とも言う。

ごろごろ ゴソゴソ

○[ごみが入って]メガ ゴソゴソ シッタヨチー。

3-4. 耳

がんがん ガンガン

○[騒音で、耳が]ガンガンシル。

きーん キーン

○ヤマサ アガルトギ ミミガ キーントシル。

じくじく ジクジク

○ミミダレガ ジクジクシル。

3-5. 鼻

むずむず ムズムズ

○[くしゃみが出そうで]ハナガ ムズムズシンチー。

ぐじゅぐじゅ グジグジ

○[風邪をひいて]ハナガ グジグジシンチー。

3-6. 口

(口全体)

ねちゃねちゃ ネチャネチャ ネバネバ ヌルヌル

○納豆を食べると、口が～する。

(歯)

がちがち ガジガジ ガクガク

○[寒くて]ハガ ガジガジシル。

○[海水浴のあと]ハガ ガクガクシッチャッタ。

注:「(歯に)ガタガ キチャッタ」とも言う。

ずきずき ズキズキ ズキンズキン ヒリヒリ

○[虫歯で、歯が]ヒリヒリ ヒリヒリ イチー。

注:ヒリヒリ(軽)→ズキズキ(中程度)→ズキンズキン(重)

(舌)

ひりひり ピリピリ

○ [辛いカレーを食べて] ペロガ ピリピリシル。

(喉)

からから カラカラ

○ アドガ カラカラン ナッチャッタ。

いがいが 無回答 (あくの抜けていない筍を食べたときは) 「(喉が) イシャッカレ
ー」 「イガッポイ」 などのように言う。

ぜえぜえ ゼロゼロ

[ぜんそくで、喉が] ゼロゼロシル。

IV 胴体の感覚

4-1. 肩

こりこり バカバカ バカンバカン

○ カタガ バカバカダイ。

○ カタガ バカンバカンニ ハッチャッタ。

4-2. 胸

どきどき 下キドキ ドキンドキン

○ [恐ろしくて] ムネガ 下キドキシル。

きゅっと 無回答

注: 悲しい話を聞いたときは「ムネガ イッペーニ ナッチャッタヨー」
のように言う。

むかむか ムネガ ムカムカシテ ショーガネーヨ。

4-3. 腹

(空腹)

ぐうぐう グーグー

○ ハラア ムシガ グーグー ナク。

ぺこぺこ ペコペコ

○ ハラガ ペコペコン ナッチャッタ。

(満腹)

たぶたぶ ガボガボ ガボンガボン

○ [水を] ノミスギテ ハラガ ガボガボダ。

ばんばん バンバン

○ [食べ過ぎて] ハラガ バンバンニ ハッチャッタ。

(腹下し) → 胃

4-4. 胃

しくしく シクシク

○ハラガ シクシクシル。(下痢気味のときも、胃痛も)

きりきり キリキリ 平リギリ

○ハラガ 平リキリ/平リギリ イデー。(同上)

注1: シクシク(軽)→キリキリ(中間)→ギリギリ(重)

注2: 下痢を「トビダレ」と言う。(トビダレン ナッチャッタ)

4-5. 尻

むずむず ムズムズ

○シリガ ムズムズシテ スワッテランネー。

V 手足の感覚

(手)

ぶるぶる ブルブル

○テガ ブルブル フルエチャッテ ハシガ モテネー。

※ ガジガジ ガジガジ

○テガ ガジガジシル。(手がかじかむ)

○テガ ガジガジン ナッチャッテ……。

(足)

がくがく ガクガク

○[下り坂の連続で] アシガ ガクガク シチャッタ。

(その他)

ぬるぬる テンダヨ。ヌルヌルシッタヨ。キモチガ ワリー。

VI 関節(骨)の感覚

ごきごき 無回答

注: 「ネクジッチャッテ(寝違えて) クビガ マワンネー」のように言う。

ぼきぼき ボキット ボキット ボキリ

○[骨が] ボキット オレチャッタ。

○[骨を] ボキリ オッチャッタヨ。

(さとうりょういち フェリス女学院大学文学部)